

平成29年度熊谷市立富士見中学校卒業式式辞

40年ぶりの大寒波も去り、日増しに暖かさが増し、春の訪れが感じられるようになりました。

富士見中学校を卒業される240名の皆さん、卒業おめでとうございます。そして、義務教育最後の3年間、立派に育て上げられた保護者やご家族の皆様。ご卒業おめでとうございます。

多数のご来賓の方々、本日はご多用の中ご臨席を賜り、ここに第71回富士見中学校卒業式を催すことができますことに感謝申し上げます。

私が皆さんと富士見中学校で過ごした時間は2年間でした。その中で皆さんから多くの感動をもらいました。

今年度富士見中学校は話し合い活動に力を入れて取り組んできました。学級会を通して皆さんの力でクラスを創り上げてきました。学級で起こった問題を話し合っただけで皆さんの力で解決してきました。

生徒会でも学校の課題を話し合い、生徒の力で解決してきました。集会の集合、登下校の様子が見違えるように改善されました。総合の時間のビフォーアフターの取組では、皆さんの力で地域の公園を見違えるようにきれいにしてくれました。専門委員会では日常の活動の成果を生徒朝会で工夫して発表してくれました。その中でも特に、保健委員会の活動が評価され、学校歯科保健コンクールでは埼玉県第1位を受賞しました。皆さんが小学校で歯磨き指導をする姿が懐かしく思い出されます。

どの活動も富士見中らしい素晴らしい活動です。

部活動では、水泳部の全国大会出場、男子テニス部関東大会出場、バスケットボール部男子県ベスト4をはじめとして輝かしい成果をあげてくれました。文化部の活動も盛んでした。大会の応援に行くのがとても楽しかったです。

さて、皆さん、富士見中学校の学校教育目標は自立・協働・貢献です。

「自立」とは、自ら考え、判断し行動できるということです。

皆さんが社会に出て活躍する十数年後は、現在ある職業の65%が無くなるといわれています。人間の仕事の多くがAI技術に代替される社会はすぐそこに迫っています。AIの情報量と処理の速さ、正確さには人間は太刀打ちできません。こういった時代に生きる皆さんは、論理的な読解力や推論の力を身に付け、自ら考え判断し、行動できなければいけません。

「協働」とは仲間と話し合い、協力し課題を解決できるということです。

これからの社会は正解のない社会であると言われていています。社会生活の中で周りの人たちと話し合い、できる限り皆が納得できる答えを見つけられる力が重要です。そのためには自分の考えを他の人に伝える力、他の人の考えを聴いて理解する力を身に付けることが必要です。人間一人の力は非常に小さいものですが、仲間と力を合わせ、話し合い、取り組めば大きな力になります。

「貢献」とは他の喜びを自分の喜びとできるということです。

相手が何に困っているかを想像し、手を差しのべられる動物は人間しかいません。自分の弱さを知り、他人の弱さを許容し、そして、自分を守るために他人を守る、社会を守るという協力関係を築いたからこそ人間は今まで生き残れたのです。

皆さん全員に年度の始めに「10年後の私」について書いてもらいました。

10年後どのような職業に就き、社会に貢献しているか目標を立て、それを実現するための進路計画を立ててもらいました。高校生活は「10年後の私」を実現するための過程です。多いに学び、挑戦してください。私は、やっていて楽しいと思える職業に就き、生きていくことが人間にとっての一番の幸せであると思います。私も皆さんのお陰で校長としての最後の1年を楽しく幸せに過ごすことができました。

銅メダルを獲得したカーリングのLS北見の5人がインタビューで「なぜいつでも笑顔でいられるんですか」という質問に対して、「自分のための笑顔です。イライラしたときに笑顔をつくと自分を鼓舞することができるんです。」と答えていました。私も皆さんに笑顔の意味について何度も話してきました。

これから始まる新しい生活の中で、富士見中学校25,362人の卒業生の一人としての誇りを持ち、笑顔で色々な事に取り組んでください。

終わりに、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様重ねてお礼を申し上げますとともに、本校教育の一層の充実、発展のために今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、3年間、様々な面でご支援、ご協力をいただきました保護者の皆様改めて心より感謝とお祝いを申し上げ、式辞とさせていただきます。

皆さん、卒業おめでとう。そして、ありがとう。

平成30年3月16日

熊谷市立富士見中学校長 松本文利